

乃木将軍にもゆかりのある

ちしょうだいし
智証大師の寺

けいそくざんほうどういんこんぞうじ
鶏足山宝幢院金倉寺は、四国八十八箇所霊場第76番札所。天台寺門宗の園城寺の末寺で、本尊は薬師如来、脇に日光・月光両菩薩を安置しています。また、鎌倉時代の作で国の重要文化財の「絹本著色智証大師像」と室町時代の作で市の指定文化財の「絹本著色両界曼荼羅」を所蔵しています。

わけのやかなり
古くは景行天皇の血筋を引く和氣宅成が、宝亀5（774）年に父が建てた仏殿を譲り受け、道善寺と名付けたのが始まりといわれています。その宅成の子として弘仁5（814）年に誕生したのが、智証大師（円珍）です。小さい頃から利発で、やがて天台宗比叡山延暦寺の第5代座主となりました。

その円珍が唐から帰り、原田の里にあった道善寺を御誕生地・金倉郷に移転しました。その後、延長6（928）年に金倉寺と名前が改められたと伝えられています。当時は、南北8km、東西4kmの広大な敷地に132院も建っていましたが、天文6（1537）年の兵火によって全焼しました。現在の伽藍は17世紀中頃、高松藩主松平頼重公によって再興され

たものです。

明治になると、旧陸軍第11師団長の乃木希典が宿舎にしていたことから、寺には乃木将軍が使っていた文具や軍帽などの遺品が大切に保存されています。



かりていもそん
「訶利帝母尊」は鬼子母神としても知られる子どもと女性の守り神で、円珍の守護神として知られ、地元では「おかるてんさん」として親しまれています。



- 金蔵寺町1160
- JR金蔵寺駅から徒歩約5分
- 納経 / 7:00~17:00
- 駐車場 / 有料 (普通車200円)
- 問い合わせ / ☎ 0877-62-0845



現在の金堂は昭和58（1983）年に落慶されました。

ちしょうだいし えんちん
智証大師（円珍）

えんちん
円珍は、弘仁5（814）年、那珂郡金倉郷（現在の普通寺市金蔵寺町）で生まれました。父は和氣宅成、母は佐伯氏の出で弘法大師空海の妹にあたります。15歳で比叡山に登り、天台座主の義真に師事、法名を円珍とし、12年間山にこもって修行を積みました。天子の命令によって、知徳の高い僧侶に賜る称号「禪師」を得て、皇室で教えを説くようになりました。

えんちん
仁寿元（851）年に唐に渡り、梵字悉曇（サンクリット語やインドの言葉）、台教・密教などを学び、天安2（858）年に帰国。翌年に園城寺に唐院をつくり、唐から持ち帰った法具などを収蔵しました。貞観6（868）年に延暦寺の第5代座主に任ぜられ、園城寺を賜り天台寺門宗の開祖となりました。

えんちん
教えを説いた弟子は100余人にのぼり、円仁、安然らとともに天台密教の歴史に偉大な業績を残しました。「法華論記10巻」、「大日教指帰」など多くの著書があります。寛平3（891）年に入定され、延長5（927）年に諡号として「智証大師」が贈られました。



智証大師（円珍）像